

法蔵 355号 11月号

・順信寺の予定

* 定例法話会 11月12日(金)午後0時より お話していただく布教使さんは、茂尻元町の浄覚寺の山下浄憲師です。お話しは午後1時からです。途中参加もかまいません。

新型コロナウイルス感染問題が出る前は毎回17,8人の参加者がいて20人までもう少しという状況でしたので参加者人数の目標20人としてきましたが、この問題が出てからは12,3人という状況が続いています。住職が調理している美味しいと言ってくれる人がいるカレーライスも残りぎみです。作る量が多すぎるといった意見もあるのですが……。とにかく、毎回違った僧侶がお話してくれます。是非聞きにいらしてください。

「月に一度、1時間30分、仏さまのお話しに耳を傾けてみませんか!!!」

* 御正忌法要 11月28日(日)午前11時より

おとき(昼食)は、お持ち帰りいただくと思っております。おときの用意にお手伝いいただける方は台所に午前8時にお越しいただきますようお願い申し上げます。新型コロナウイルスの感染状況によりましては、日程を変更することがありますので御了解いただきますようお願い申し上げます。

* 定例法話会 12月12日(日)午後0時より お話していただく布教使さんは、まだ決まっていません。今年最後の法話会です。御参加お待ちしております。

* 親鸞聖人御命日のお参り 12月28日(火)午後1時より

○ だんだんと日が短くなり寒くなってまいりました。地球が順調に太陽の周りを回っているということなのですが、いよいよまた冬が来ます。たくさん食べて、暖かい服を着て、身体にやさしくして、冬のファッションを楽しみましょう?!

「いのちは ずっと連続している 未来に向かっても 肉体の死を通して 続いていく
いのちがある」(「清風 No.591」より)

心の師とはなるとも、心を師とするなかれ (鴨長明)

～鴨長明が「発心集」で上記の言葉を述べているそうです。自分の心、気持ち、思いを絶対化してはなら

ないということでしょうか。自分の感情が正しいということはないということでしょうか。

「・・・今でも、世界が灰色に感じられてしまう「時」があります。それは、私の「頭が上がっている時」です。「頭が上がっている時」とは、周りだけでなく、自分のことも、無意識のうちに評価し断定し、「わかってしまっている」時です。そして「また頭が上がっている」という懺悔が起こる「時」、目の前の出来事が、厳粛に感じられ、いっしょに悲しむことができる感覚が、新しく蘇るのです・・・」（「サンがNo.174 お寺の掲示板」高柳正裕）とありました。世界が灰色に感じるとは絶望でしょうか。それは無意識に色んなことを評価し断定してしまっている時だということです。そのことを恥ずかしいと感じた時に生きるという世界が広がるのです。自分の思いで固まってしまったことは恐ろしいと思います。

自分には注意しなければならないのです。

「なりたい自分にならなくても なった自分で生きてらいい」（「清風No.591」より）

○ 木村無相師『念仏詩庄』より

「法蔵さま

涙には 涙にやどる ほとけあり そのみほとけを 法蔵という」

「泣くがよい

泣くがよいー 生きがたい日は 泣くがよい」

「なつかしき

みな死ぬる 人とおもえば なつかしき」

「呼びたもう

夜ぞら深きに 星のあり ころろ深きに 如来あり

ナムアミダブツと 呼びたもう ナムアミダブツと 呼びたもう」

* 忠峰コーナー

「鹿の群れ 我がもの顔に 秋の道」

「昨日今日 二日で木々は 葉を散らす」